

豊二校だより

学力調査特別号

令和5年(2023年)12月1日 No. 10

吹田市立豊津第二小学校

吹田市江坂町2丁目5番1号

Tel.6386-0861 FAX6386-8743

<http://www2.suita.ed.jp/school/es/16-toyo2/>

令和5年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として『令和5年度全国学力・学習状況調査』を実施し、8月末に個人ごとの結果をお返ししました。また、吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語、算数に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えております。

対象となった6年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善を図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として参考にさせていただきますようお願いいたします。

1. 教科に関する調査結果の分析 (△…上回っているもの ▼…下回っているもの ◇…同じもの)

●国語 (14問 45分)

《概要》 本校児童の正答率は、全国値をやや上回る結果であった。

《各領域における成果と課題》

聞くこと 話すこと	△必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉えることについては、全国値を上回る。 △目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることについては、全国値を上回る。
書くこと	△図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することについては、全国値を上回る。
読むこと	△目的に応じて、文章と図表などを結びつけることについては、全国値をやや上回る。 ▼文章を読んで理解したことをまとめることについては、全国値をやや下回る。
我が国の言語文化に関する事項 言語の特徴や使い方	△情報と情報、語句と語句との関係の表し方を理解することについては、全国値を上回る。 ▼日常よく使われる敬語を理解していることについては、全国値をやや下回る。

国語科における成果と今後の改善点について

話すこと聞くことが、全国値を上回ったことについて、学校における感染症への防止対策などが緩和され、話し合い活動が徐々に活発になっていることが要因であると考えられました。また、本年度の研究主題である「対話的・協働的な学習を通して、課題解決を図る子どもの育成」に対する一定の成果があったと考えられました。

一方、読書したことを理解し、読んだことをまとめる力が、全国値をやや下回ったことについて、日常的

に読書を促していく必要があると考えられました。そのため、引き続き朝の読書タイムや学校図書館の取り組みから、読書に親しむ児童の育成を目指します。

国語の授業に捉われず、様々な授業の中で話し合う活動を多く取り入れ、自分の考えを周りに伝える力、相手の伝えたいことを中心を捉える力の育成につながるよう、指導していきます。

●算数（16問 45分）

《概要》 本校児童の正答率は、全国値を上回る結果であった。

《各領域における成果と課題》

数と計算	△示された日常の場面を解釈し、求め方や答えを記述し、その結果が条件に当てはまるかどうか判断することについては、全国値を上回る。 △加法・乗法の混合した式の計算をしたり、分配法則を用いたりすることについては、全国値を上回る。
図形	△正三角形の意味や性質を問うことについては、全国値を上回る。 ▼正方形の意味や性質を問うことについては、全国値をやや下回る。
変化と関係	△伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを証明する問題について無解答率は0である。また、そのために必要な値を用いることについては、全国値を上回る。 △伴って変わる二つの数量が比例の関係であることを用いて、知りたい数量の求め方や答えを記述することについては、全国値を上回る。
データの活用	△どの課題についても、全国値をやや上回る、または全国値を上回る。 ▼二つのグラフを比較し、違いについて記述することについては、無回答率が高い。

算数科における成果と今後の改善点について

すべての領域において全国値を上回る結果となりました。この要因として、子どもたちが日々の授業に、前向きに取り組んでいることが考えられます。それに加えて、宿題を含む日々の家庭学習を丁寧に行い、学習が定着していることも大きな要因だと考えられます。

授業では、毎回めあてを提示し、課題に対して自分の考えを持ち、解決に向けて粘り強く取り組んでいます。また、クラスの中でお互いの考えを伝え合う、本校が掲げる研究主題「対話的・協働的な学習」を大切にしています。

今回の学力テストでは、問題数の多さや出題の種類に左右されず、無回答率が低いことも成果として挙げられます。しかし、記述式の問題に関しては、短答式や選択式の問題に比べると少し無回答率が高くなっています。今後の算数科の授業では、自分の考えを表現したり、整理したりすることなどに、iPadも活用しながら、交流活動の中で解決できるよう指導を続けていきます。また、日々の授業や火曜日の学力保障タイム（学保）の中で、算数的な要素を含んだ言葉を使用して自分の考えを表現していくことで、さらに言語化できるよう指導していきます。

2. 児童アンケートに関する調査結果の分析

授業等学校生活に対する意識	国語について	△国語の授業で、物語を読むときに、登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、どのような表現で描かれているのかに着目していると答えた児童は、全国値を上回る。 ▼国語の勉強は好きと答えた児童は、全国値を下回る。
	算数について	△算数の勉強は好きと答えた児童は、全国値を上回る。 ▼算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと答えた児童は、全国値をやや下回る。
	その他	△授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていると答えた児童は、全国値をやや上回る。 ▼学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると答えた児童は、全国値を下回る。
家庭や地域での生活に対する意識	△土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強しているかについて、全国値を上回る。 ▼今住んでいる地域の行事に参加していると答えた児童は、全国値を下回る。 ▼あなたの家には、およそどれくらい本があるかについて（雑誌、新聞、教科書は除く）、全国値を下回る。	
自己肯定感に関する意識	△困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できると答えた児童は、全国値を上回る。 △自分には、よいところがあると答えた児童は、全国値をやや上回る。 ▼毎日、同じくらいの時刻に寝ていると答えた児童は、全国値を下回る。 ▼自分と違う意見について考えるのが楽しいと答えた児童は、全国値を下回る。	

3. 今後の取り組み

本校ではこれまで、コミュニケーション力の向上を目指して、国語科の授業研究に取り組んでいました。今年度は、国語科に拘らず全ての教育活動を通して、よりコミュニケーション力や児童の学び合う力を育成するために、研究主題を「対話的・協働的な学習を通して課題解決を図る子どもの育成」を設定しました。本校では、学習課題に対して自分の考えをまとめ表現し、友達の見解を聞いて考えを練り上げていく主体的な学習活動を多く取り入れています。また、学ぶ意欲を高める授業づくりの工夫、研究を一層進めていきます。さらに、生活環境や学習習慣等の結果を踏まえ、児童の自己肯定感を高め、自立と幅広い学習の機会をつくるため、次のように取り組みを進めていきます。

【学力向上について】

自分の感想や考えをもち、それらを広げたり、深めたり、表現したりできるよう、児童同士で話し合いが広がっていくような授業づくりを目指しています。児童に一人一台導入された SUN ネット端末 (iPad) やプロジェクター等の ICT 機器を効果的に活用し、さらなる学習の意欲向上と、理解力向上へつながる授業の研究と実践に取り組んでいきます。授業の中では ICT 機器の活用によって、互いの意見や思考の過程が視覚的に捉えられるような授業構成を工夫していきます。また、学習のスタンダードである「めじつたふ」(めあて・自分の考え・伝え合い・確かめる・振り返り)を大切に、児童の意欲を高める授業づくりを進めていきます。

【授業規律・生活規律について】

生活目標については、毎月の集会で確認したり、児童委員会の活動や学校長の講話等を中心に、日々の学習や生活規律の重要性を伝えたりしています。また、携帯電話やスマートフォン等の使用方法や、正しい SNS

の使い方、情報モラルなどを引き続きデジタルシティズンシップ（DC）教育を通して指導していきます。

【仲間づくりについて】

あすなろ活動（異学年集団における活動）を通して、学校全体の豊かな仲間関係を作り、思いやりの心を育てるとともに、リーダーとしての自覚や責任感を育て、自己肯定感を高めていきます。「自分にはよいところがあるか。」や「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できるか。」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある。」などの項目では、全国値より上回っており、本校の児童の自己肯定感が高いことが分かります。

【規則正しい生活習慣について】

毎日同じ時刻に、寝たり起きたりしていると答えた児童は全国値より下回っており、生活習慣の乱れが懸念される結果でした。毎年、本校児童に実施している「生活習慣調べ」を継続して行っており、結果の把握を今後の指導に役立てていきます。これからも引き続き、児童が自分の生活習慣だけでなく心の健康にも目を向け、心身ともに健康に過ごせるよう指導に取り組むとともに、保護者への情報発信等にも取り組んでいくよう努めていきます。